

男女共同参画情報誌

～わたしたちの望む社会へ～

とらいあんぐる

第10号



皆さん、男女共同参画という言葉をご存じですか。

薩摩川内市では、平成17年4月「男女共同参画基本条例」を施行しました。

この情報誌は、市民の皆さんと意見の交換をしながら一緒に「男女共同参画社会」を築くことを目標にしています。

画子 最近、少子化がよく話題になっているけれど、三十万という命がこの世に生まれてくる権利を奪われている現実があることは、あまり取り上げられないいわね。それは聞き捨てならない情報ね。どういうこと？

参子 平成十六年度厚生労働省調査の人工妊娠中絶件数よ。二十歳未満の割合が増えてきているらしいわ。

画子 ショッキングな数字ね。でもやっぱりそれって大都会に集中してるんでしょ。

参子 そう思いがちだけど大都市も地方都市も割合はあまり変わらないのよ。そして川薩地区の二十歳未満の人工妊娠中絶率は県内でもとても高いってこともあまり知られてないいわね。

画子 ええ、そうなの。どれくらい？

参子 平成十五年では、県平均の一・

男女共同参画講座 part 9

参子さんと画子さんの会話



画子さん

参子さん

画子 五倍になってるのよ。中絶した女性の多くが「彼に嫌われたくなかったから……」って言うそうよ。それから「愛があれば……」とかね。本当に相手を大切に思うなら、相手の心や体のことを考えて行動するはずよ。

参子 二十歳未満で結婚している人の八割が「できちゃった結婚」という統計もあるわ。「できちゃった……」って言葉には望まないのに……という意味が隠れていると思うんだけど……。

画子 女性が自ら産む産まないの意思を持ってはつきりと相手にもそれを伝える力をつけて、男性も女性の気持ちを思いやりを持って受け止めてくれないと問題は解決しないと思うの。

参子 ねえ、この話も男女共同参画に関係あるんでしょ。

画子 もちろん。薩摩川内市の条例には「性と生殖に関する生涯にわたる健康と権利への配慮」を基本理念の一つとして掲げているのよ。男女共同参画の用語では「リプロダクティブヘルス・ライツ」これまたすぐには言えないような言葉だけど覚えてね。うん、難しいな。

画子 いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由があるってこと。それから、この「リプロダクティブヘルス・ライツ」は、性

参子 そうね。もちろん男性の健康も大切よ。でもね、ここでわかってもらいたいのは「産む性」である女性には、男性とは異なるさまざまな心身の健康問題があるってことなの。人工妊娠中絶の問題など現実起こっていることに目をそむけないでよく考えてみる必要があるんじゃないかしら……。

画子 生活、子どもの健康、思春期、更年期の健康など女性が生涯にわたって、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態とそれを楽しむ権利という意味なのわかったようなわからないような……女性が心も体も生涯健康でいるための権利ってことかな。でも女性だけ？男性のことはいいの？

この情報誌に関するご意見、ご感想、取り上げて欲しいことなどありましたら、下記までご連絡ください。

編集 男女共同参画情報誌
「とらいあんぐる」編集委員

発行 〒895-8650 薩摩川内市神田町3番22号
薩摩川内市役所 企画政策部
コミュニティ課
TEL 23-5111 FAX 20-5570
Eメール: gender@city.satsumasendai.lg.jp

もっと わかり合いたい女と男～相手の大切なものも大切に～

基調講演

衆議院議員 猪口 邦子 氏

「少子化・男女共同参画担当大臣としての日々」

少子化問題がこのまま進むと、2045年には総人口1億で高齢化率38.2%の超高齢化社会になる。子育ては誰の責任か。絶対的弱者の子どもを守るのは「保護者」であるが、その保護者も又弱者であるとの観点から、経済的、社会的にも社会全体で支えなければならない。

データによると、働く女性が多いほど出生率が回復しているし、夫の家事育児時間が少ない国は出生数も低い。出生率が伸びている国は、女性が仕事と子育てを両立できるシステムが構築されている。少子化対策が男女共同参画と不可分だとわかる所以だ。

社会の意識改革を促すには、女性自らが政策立案に参画することが求められる。第2次男女共同参画基本計画には、2020年までに企業や各種団体の課長級以上

の指導的立場の女性が、30%になるように(202030)目標が盛り込まれている。

(責任あるポストに推薦されたら)☑るまない、(取り立てられた人を)☑がまない、

(足を)☑っぱらない、という3つの☑で、連帯を組んで大きな壁に立ち向かい、自分を育て人を育ててほしい。男女共同参画社会では、リーダーシップを発揮する人とその人を支えるチームが必要。一人だけで解決してしまうのではなく、地域社会全体でチームを組んで取り組む意識が大事だ。(N.I)



第1分科会

川内CAP

「あなたには安心して自信を持って自由に生きる権利があるんだよ！」

CAPとは子どもがあらゆる暴力から自分を守るための人権教育プログラム。誰もが安心して自信を持って自由な気持ちで生きる権利がある。その権利をとられそうになった時のために「いやという力」「にげる力」「誰かに相談する力」をつける必要がある。そのためのキーワードが「エンパワメント」。誰もが本来持っている力を引き出し問題解決の方法として自己の中に力を蓄え積極的な自分を作り出すこと。その妨げとなる女だから、男だからと自分を過小評価してしまうジェンダー(社会的、文化的に形成された性別)に気付くことの大切さへと導いていた。まさに男女共

同参画社会の目指すものと一致した。寸劇による暴力への具体的な対処法にもなるほどと納得したが、進行役をされた女性が自分もエンパワメントを知り、こうして人前で話すという昔の自分には考えられない力を得たというひとことも印象に残った。(S.N)



第2分科会

NPO法人ピンクリボンかごしま

「乳がんを理解しよう～生涯の健康のために～」

ピンクリボンは、乳がんの早期発見・早期治療を促す



活動を幅広く展開している団体。今回は乳がんという病気を窓口にして、『パートナーが病気

や困難にあったとき何をしてあげたいか』などの意見交換を行った。妻が発病の際「どうしたらいいかわからない」という夫からの相談も多いそうだ。「夫婦でお互いに病気になった場合の具体的な取り決めをしている」という意見には会場から「スゴイ、それはいい」の声。互いに健康面での理解と支援、そして思いやりを持つことの大切さを改めて認識する機会になった。(Y.K)

2/12 男女共同参画フォーラム報告 ~もっと

第3分科会 薩摩川内市女性団体連絡協議会

「みんなで考えよう 性と生」

少子高齢化の到来により、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化し、特に思春期の子ども達の性の問題は社会問題になっている。性を考えることは、生きること考えることで、人間の生き方、生命の尊さ、女性と男性における性の在り方の違いについて、4人のパネラーが各々の立場から発表し、会場との質疑応答の形で進められた。薩摩川内市は若年者の人工妊娠中絶率が県下でも高い。生徒にアンケートを実施した高校養護教諭は、性教育の大切さを危機感を持って感じ、一部の生徒とはいえず子どもたちの置かれている現状に対応する難しさに苦慮しているという。また最近婚約し同居を始めた男性は、男だから女だからではな

く、家事育児お互い協力してやっているという意見、育児サークルキッズランドの女性は「小さいは小さいなりに性について教えることが必要なのでは」という会場からの意見に対して「今までそういう観点で接してこなかった。みんなで話し合っ取り組めれば」と応えていた。行政からは具体的な施策や事業の紹介があった。

(N. I)



第4分科会 ジェンダー研究サークル

「女は結婚して子どもを産まないと一人前じゃないの？」

少子化の原因は産まない女性にある…そんな声が聞こえてくる現代の日本社会に疑問を抱いたことから始まった今回のワークショップは『シンデレラ』や『白雪姫』のように白馬の王子様をただひたすら受身で待ち続けるヒロインに注目し、理想の相手との結婚を待ち望む女性たちの晩婚化を指摘した。また育児における女性の悩みを調査し、諸外国の



育児支援の取り組みとの比較から、日本における育児支援の未熟さと子育てについての社会の認識の低さを指摘した。発表者の問題提起を受けて五つのグループに分かれて活発な意見交換が行われ参加者の問題意識の高さを示した。女性は産む可能性のある「性」であって、その人間の価値は子どもを産むか産まないかによって決まるのではない。男女問わず多様な生き方を認め合い、色とりどりの花が咲き誇る日本社会の実現に期待し、一人ひとりの意識改革の必要性と日常生活における社会を変える小さな勇気ある行動の実践を提案しワークショップは終了した。(S. M)

第5分科会 オアシスクラブ

「男の本音って？」

まちづくりの活動を続けるオアシスクラブの男性によるワークショップには、4割の男性に6割の女性、60数名の参加で大盛況だった。「伝えたい、分かってほしいという気持ちを抱えながら、本音を語る場が無いという男性の気持ちを出し合える場にしたい。」と、山田晋先生は参加者に語られた。女性側が地域の役員を避けたり、女性同士で批判し合ったりするところがあって苦勞する。女性がみな表に出たいと思っているわけではないのではといった男性の意見が出てきた。それに対する女性の意見も交わされ、参加者それぞれ

に考える場が与えられたように思う。このような場で男女ともに、お互いの本音を出し合い、よりよい社会になるよう歩み寄ることが、男女共同参画社会の実現を進めていくであろう。その意味で、このワークショップの意義は大きい。(K. K & H. N)



提供
とらいあんぐる

条例劇場

第4回

春爛漫、されどトラにはまたもや受難の兆し…？ 皆さんの自治会はどうですか？



昔ながらの
やり方も
大事なんだ
けど…



時代や状況
に合わせて
変えていく
ことも…ね

第3条(2) 社会における制度又は慣行が、性別による固定的な役割分担等に基づき、男女の社会における活動の自由な選択に対して影響を及ぼすことのないように配慮されること。